

平成30年度  
定期総会資料

と き 平成30年7月30日（月）13時30分

ところ オークスカナルパークホテル富山2階「桜」

高山本線強化促進同盟会

# 次 第

1 開 会

2 挨拶

3 議 事

議案第1号 平成29年度事業報告について

議案第2号 平成29年度収支決算について

議案第3号 平成30年度事業計画（案）について

議案第4号 平成30年度収支予算（案）について

報告第1号 役員改選について

報告第2号 会員の異動について

4 決 議

決議（案）について

5 そ の 他

6 閉 会

---

7 視察

・富岩運河水上ライン遊覧

## 平成29年度事業報告書

自 平成29年4月 1日

至 平成30年3月31日

年 月 日	事 業 内 容
29. 5. 16 (火)	第1回幹事会を開催し、定期総会の日程、事業計画、要望活動について協議 (富山市)
29. 5. 30 (火)	<p>定期総会を開催し、平成28年度事業報告及び同収支決算並びに平成29年度事業計画(案)及び同収支予算(案)を審議決定 (富山市)</p> <p>[決議]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 北陸新幹線との相乗効果やリニア中央新幹線の開業を視野に入れ、所要時間の短縮や列車本数の増加など、旅客輸送サービスの強化改善を推進すること。</li> <li>2 輸送の安全、防災対策を充実させるため、あらゆる角度から強化改善を検討し、事故防止に努めること。</li> <li>3 安全で快適に利用できる鉄道施設、車両等のバリアフリー化を推進すること。</li> </ol> <p>定期総会に引き続き、事例発表を実施。 「富岩運河環水公園等の賑わい創出」</p>
29. 6. 25 (日)	特急「ひだ」への利用実態調査の実施
29. 6. 27 (火)	
29. 10. 23 (月)	PR用英語ポケットティッシュ作成
29. 11. 7 (火)	特急「ひだ」への利用実態調査の実施
29. 11. 12 (日)	
30. 1. 26 (金)	東海旅客鉄道株式会社 (名古屋市) に対し要望を実施
30. 2. 16 (金)	西日本旅客鉄道株式会社金沢支社 (金沢市) に対し要望を実施

# 平成29年度決算書

自 平成29年4月 1日

至 平成30年3月31日

## 収入の部

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 引 増 減 (△) 額	摘 要
1 負担金	368,000	368,000	0	19 団体
2 特別負担金	600,000	600,000	0	富山県・岐阜県
3 繰入金			0	
4 繰越金	220,488	220,488	0	前年度繰越金
5 雑 入	100	5	△95	預金利息
計	1,188,588	1,188,493	△95	

## 支出の部

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 引 増 減 (△) 額	摘 要
1 会議費	150,000	35,436	114,564	総会、幹事会会場経費等
2 事業費	913,588	587,114	326,474	調査旅費等
3 事務費	10,000	6,456	3,544	総会開催通知返信はがき代等
4 負担金	10,000	10,000	0	全国鉄道整備促進協議会負担金
5 積立金	100,000	100,000	0	90周年記念事業積立
6 予備費	5,000	540	4,460	
計	1,188,588	739,546	449,042	

収入合計 1,188,493円

支出合計 739,546円

差引残高 448,947円 (平成30年度へ繰越)

## 90周年記念事業の部

(単位：円)

前年度までの積立額 (a)	29年度積立額 (b)	29年度末残高 (a)+(b)
200,000	100,000	300,000

# 監査報告書

高山本線強化促進同盟会会則第7条第5項の規定により、平成29年度決算について、監査を実施し、証拠書類、帳簿などを精査したところ、適正に執行されていたことを認めます。

平成30年5月11日

監事 下呂商工会会長 中川 正之

平成30年4月24日

監事 富山市八尾山田商工会会長 井山 泰樹

高山本線強化促進同盟会

会長 富山県知事 石井 隆一 殿

# 平成30年度事業計画（案）

## 1 基本目標

高山本線は、これまで我が国のほぼ中央部において日本海側と太平洋側を結ぶ大動脈としての役割を担い、沿線各地はもとより中部圏全体の交流の活発化を図り、経済・文化の発展、向上に寄与してきた基幹鉄道である。

平成27年3月14日に北陸新幹線の長野ー富山・金沢間が開業され、平成39年にはリニア中央新幹線の東京ー名古屋間の開業が予定されており、これまで以上に地域間の交流・連携が図られる。

また、高山本線は沿線に多くの観光地を有するとともに、車窓風景も美しい「観光路線」であり、平成24年1月より始まった外国人観光客誘致のための「昇龍道プロジェクト」の取り組みと相まって、北陸と東海を内陸で結ぶその重要性はますます高まるものと期待される。

なお、平成23年3月に発生した東日本大震災及び平成28年4月に発生した熊本地震においては、各地に甚大な被害がもたらされ、交通機関も大きな打撃を受けた。また、この度の平成30年7月豪雨は、高山本線においても、土砂崩れや土石流による線路設備等の流出などが発生し、運行が休止に追い込まれるなど、多大な被害を受けているところであり、一日も早い復旧が望まれている。

こうした情勢を踏まえ、本同盟会は一致協力し、高山本線の一日も早い復旧をはじめ、旅客輸送サービスの強化改善、大規模災害を視野に入れたより一層の安全確保に向けた取り組みを展開していく。

## 2 活動項目

- (1) 東海旅客鉄道及び西日本旅客鉄道に対する要望
- (2) 高山本線の利用者増に向けた広報・啓発活動
- (3) 全国鉄道整備促進協議会等の関係機関との連携及び情報収集活動
- (4) その他本同盟会の目的達成に必要な事項

## 平成30年度収支予算（案）

自 平成30年4月 1日

至 平成31年3月31日

## 収入の部

(単位：円)

科 目	平成30年度 予 算 額	平成29年度 予 算 額	比較増減 (△) 額	摘 要
1 負担金	362,000	368,000	△6,000	19団体→18団体 (高岡市脱退)
2 特別負担金	600,000	600,000	0	岐阜県・富山県
3 繰入金	0	0		
4 繰越金	448,947	220,488	228,459	前年度繰越金
5 雑入	100	100	0	預金利息
計	1,411,047	1,188,588	222,459	

## 支出の部

(単位：円)

科 目	平成30年度 予 算 額	平成29年度 予 算 額	比較増減 (△) 額	摘 要
1 会議費	150,000	150,000	0	総会、幹事会経費等
2 事業費	1,136,047	913,588	222,459	利用実態調査経費及び 広報・啓発事業経費等
3 事務費	10,000	10,000	0	振込手数料等
4 負担金	10,000	10,000	0	全国鉄道整備促進協議会 負担金
5 積立金	100,000	100,000	0	90周年記念事業積立金
6 予備費	5,000	5,000	0	
計	1,411,047	1,188,588	222,459	

## 90周年記念事業の部

(単位：円)

前年度までの積立額 (a)	30年度積立額 (b)	30年度末残高 (a)+(b)
300,000	100,000	400,000

平成30年度負担金内訳

(単位：円)

団体名	負担金額	団体名	負担金額
愛知県	28,000	七宗町	6,000
岐阜県	57,000	白川町	6,000
岐阜市	28,000	飛騨市	28,000
高山市	28,000	岐阜商工会議所	6,000
美濃加茂市	16,000	高山商工会議所	6,000
各務原市	16,000	下呂温泉観光協会	6,000
下呂市	28,000	富山県	57,000
坂祝町	6,000	富山市	28,000
川辺町	6,000	富山商工会議所	6,000
		合計	362,000

団体名	特別負担金額
富山県	300,000
岐阜県	300,000
計	600,000



## 役員改選について

高山本線強化促進同盟会会則第6条第1項の規定により、岐阜県知事を会長に互選しましたので報告します。

また、同条第2項の規定により、別紙のとおり、役員委嘱を行いましたので報告します。

任期 平成30年8月1日～平成32年7月31日

平成30年7月30日

## 会員の異動について

異動の種類	異動年月日	会員名
脱退	平成30年3月31日	高岡市長
脱退	平成30年3月31日	高岡市議会議長

# 決 議 (案)

高山本線は、我が国のほぼ中央部において日本海側と太平洋側とを結ぶ交通の大動脈としての役割を担い、沿線各地はもとより中部圏全体の交流の活発化を図り、経済・文化の発展、向上に寄与してきた基幹鉄道である。

これからも高山本線の存在は、太平洋側から日本海側に至る個性豊かな日本の中央部における広域交流圏を形成するうえで必要不可欠であり、沿線地域の産業、文化、生活等の諸機能の整備とあいまって、中部圏の活性化に大きく貢献するものと確信する。

平成27年3月14日に北陸新幹線の長野―金沢間が開業し、首都圏と北陸との時間距離が飛躍的に短縮され、さらに、平成39年にはリニア中央新幹線の東京―名古屋間の開業が予定されており、今後、地域間の交流・連携が一層図られることが期待される。

また、高山本線は沿線に多くの観光地を有するとともに、車窓風景も美しい「観光路線」であり、平成24年1月より始まった外国人観光客誘致のための「昇龍道プロジェクト」の取り組みと相まって、北陸と東海を内陸で結ぶその重要性はますます高まるものと期待される。

こうした中、この度の平成30年7月豪雨により、高山本線においても、土砂崩れや土石流による線路設備等の流出などが発生し、運行が休止に追い込まれるなど、多大な被害を受けているところであり、一日も早い復旧が望まれている。

こうした情勢を踏まえ、J R東海及びJ R西日本においては、一日も早い復旧をはじめ、より一層の安全対策、安全運行を確保されることはもとより、北陸新幹線及びリニア中央新幹線開業を機に新たな交流人口の拡大と広域観光の推進を図るため、高山本線の一層の利便性の向上に努められることが強く望まれるところである。

よって、我々は、高山本線の強化促進に向けて、次の事項について一致協力して、強力な運動を展開するものとする。

(1) 平成30年7月豪雨により、運休を余儀なくされている高山本線の日も早い復旧。

(2) 北陸新幹線との相乗効果やリニア中央新幹線の開業を視野に入れ、所要時間の短縮や列車本数の増加など、旅客輸送サービスの強化改善を推進すること。

- ・特急「ひだ」の増発
- ・北陸新幹線との乗り継ぎの利便性を確保するダイヤ改正
- ・観光シーズンに併せた臨時列車の運行拡大
- ・富山―高山間における観光列車の季節運行
- ・利用実態の把握
- ・電化及び複線化の促進
- ・部分線増、一線スルー化、分岐器の改良等によるスピードアップ

(3) 輸送の安全、防災対策を充実させるため、あらゆる角度から強化改善を検討し事故防止に努めること。

- ・危険箇所の保守点検や保安設備の強化等の積極的な推進
- ・災害や事故発生時における機能的な連絡体制の構築

(4) 安全で快適に利用できるようにするため、鉄道施設や車両等の改善を推進すること。

以上決議する。

平成30年7月30日

高山本線強化促進同盟会

※下線部は今年度新規追加・修正部分

